

令和5年度 兵庫教育大学附属中学校 学校経営計画（案）

1 めざす学校像等

1 はじめに

令和5年度附属中学校学校経営計画策定にあたり、新校長として、これまでの教育活動の成果を踏まえ、特に今後の校種間連携の充実や学校運営協議会制度の導入等着実な取組により、学校を取り巻く様々なステークホルダーとの間の新たな信頼の構築をめざす。そのために、まず今年度は以下の「兵庫教育大学附属学校園のミッションとビジョン」（以下「ミッションとビジョン」）実現の原点に立ち帰り、着実な成長基盤を固める1年とする。

私が、今最も重視することは信頼関係の構築である。このことは、保護者や地域との信頼関係はもとより、派遣自治体や地元教育委員会や周辺地元学校との信頼関係を回復することが、今後の学校改善に何より重要であると考えている。なお、本経営計画については、学校の現状に合わせて必要に応じ、随時修正するものとする。

2 「ミッションとビジョン」等

(1) 「ミッションとビジョン」

○ 学校像

先端的な教育環境のもとで、幼稚園、小学校、中学校の12年間を通して、園児・児童・生徒、教職員、保護者が一体となって、地域社会と連携しながら、一人一人の子どもの学びと成長が保障される創造性豊かな学校をめざします。

○ 子ども像

これからの社会において必要とされる情報活用能力を身に付けるとともに、主体的かつ対話的な教育活動を通して、心身ともにたくましく、未来を切り拓いていける知的創造力と寛容性を兼ね備えた、グローバル社会で活躍できる人間を育成します。

○ 教員像

全国の自治体から附属学校園に派遣される教員が、附属学校教員としての自覚をもち、互いに敬意をもって高め合い、学校における働き方改革を踏まえ、先進的で優れた教育実践に取り組み、地元自治体の中心的な教員として活躍できる資質・能力の向上に努めます。

(2) めざす子ども像

なお、附属中学校では独自にめざす子ども像を設定しており、今年度については昨年と同様以下の通りとする。なお、表現について子ども像を「生徒像」、子どもの育成という表現は「市民の育成」に改めた。

①生徒像

「平和で人間らしさが追求できるより良い社会の実現のために、物事を多角的多面的に理解し、自分で目標を設定し、振り返り、責任をもって行動することで、社会の変化と持続可能性をもたらす新しい価値を「共創」できる市民の育成をめざす」

②兵庫教育大学附属中学校「10の学習者像」

- ①探究し創造する人 ②自他を認め、心を開く人 ③知識を習得し、考え続ける人 ④正しい判断力による信念を持つ人
- ⑤豊かな心を持ち考察できる人 ⑥強い心を持ち挑戦する人 ⑦互いに信頼できる人 ⑧社会に貢献する人 ⑨協働できる人
- ⑩知・徳・体の調和が取れた人

2 中期的目標（3年間程度）

1 気持ちのそろった校内組織・教師集団づくり

(1) 新たな学校運営体制と管理職による的確なガバナンスの確立

校長は、小学校校長との兼任であることを踏まえて、新たな学校運営組織体制の構築及びガバナンス機能を充実させる具体的な取組を推進し、組織として目標達成に向かう校長の新たな理念の浸透を図る。

(2) 積極的・意欲的で一体感のある教職員集団の構築

管理職を含む教職員間の関係づくりを推進し、教職員間が互いに助け合い、多様性を認め協力して同僚性を高め、保護者や生徒にとっても、教職員にとっても成長が実感できる居心地の良い学校、職場をめざす。

特に、特定の教員に負担が偏って時間外勤務が増大することが無いように、管理職、ミドルリーダー、学級担任、特定教諭、非常勤講師がそれぞれの責任をしっかりと果たす体制づくりに努め、校務分掌の不断の改善を図る。

(3) 生徒に対する取組みの成果を意識する。

良い授業の結果として、学力テストや授業に関する質問紙調査等により検証し、自己の授業や学級経営を振り返り、授業改善やカリキュラム改善の参考とする。

2 学校を取り巻く様々なステークホルダーとの間の信頼関係の構築・強化

(1) 大学との共同研究の取組の推進

- ①森山教授と永田教授の協力による STEAM 教育と教科に関する研究の取組。インテル STEAMLABO を活用した取組。
- ②「理論と実践の融合」研究における STEAM 教育に関する共同研究に小中合同で取り組む。
- ③大学教員の指導を受けて、教科部として授業力の向上を図る。大学との共同研究体制の確立

(2) 学校運営協議会制度（コミュニティ・スクール）の円滑な推進

- ①保護者、生徒も学校運営に関わる、ガバナンス重視のコミュニティ・スクールの導入を検討し、学校運営の安定性・継続性に努め、当事者として学校づくりを担う責任感の共有を図る
- ②地元自治体等との関係改善
これまでとは異なり、地元自治体や地元の公立学校との関係修復を進めともに協力し合える関係を構築する。その上で、具体的な地域貢献活動を検討する。
- ③附属学校ならではの効果的で意味あるコミュニティ・スクールの取組として、地域の「教員の知の拠点」をめざす。

(3) 新しい人事交流先との協定締結と計画的な拡大

教員採用における派遣自治体との関係を改善し、自治体が求める教員を附属学校で育成するための方針を打ち出すなど、何より派遣自治体の信頼を獲得し、教員不足下にあっても、派遣教員の増加をめざした取組を大学と共に推進する。

3 安全・安心な学校づくり

(1) いじめの未然防止、早期の組織対応の徹底。

(2) 教科や特別活動、総合的な学習の時間等における様々な取組を通して相手の立場を考え、違いを認め合う集団を形成する。

(3) 発達段階に応じた授業規律、生活規律等の検討と統一した指導。

どの学年も赴任した先生と共に統一して指導できる指導ルールの明確化

(4) 長期欠席者の理由の明確化し、適切なアセスメントと対応。

(5) 生徒や保護者への相談・支援体制確立。

(6) 新型コロナウイルス等感染症への適切な対応の徹底

(7) 今年度本格化する校舎改良工事について安全にかつ教育環境が低下することが無いように十分に配慮する。

4 附属学校としての新しい文化の創造

(1) 働き方改革の推進

①全国の附属学校の課題である働き方改革の確立。

在校時間の適切な管理、時間外勤務の適切な取り扱い、教員の負担の公平化、会議の短時間化等の取組を推進する。

②効率的な引継ぎシステム

在籍3年を見越した校務分掌の改善検討と短期間に附属学校の教員としての基本が理解できる引継ぎ資料の作成。

③地元自治体の働き方改革のリーダーとなるミドルリーダーのタイムマネジメント能力獲得。

(2) 校種間連携の推進

加東市を含め自治体では義務教育学校の設立が進む、一方でカリキュラムの一貫性等一貫教育を推進できる教員は自治体では不足しており、その育成は強く求められている。校長が小中で兼任となったことを最大限に生かし、特に小中間の連携を深め、人事異動等も含め、幼小中の一貫教育の具体的な取組推進とそれができる人材育成を進める。

(2) カリキュラムマネジメントの推進

本校では、これまでのキャリア探求総合の取組に加え、IB 国際バカロレアの認定校をめざす取組を推進してきた。しかし、令和5年度初めに、今後の本校の新たな特色として、何がふさわしいのか、適切であるのか再度原点に戻り、再検討をする必要が生じている。今後、大学や民間企業との共同研究の状況や教員の異動等体制の問題を含め、時間をかけて大学と協議し慎重に検討を進める必要がある。

(3) 「教員養成の知の拠点化」推進

地元教育委員会の教科研究会等への参加や兵庫県教育委員会・研修センターとの連携に努め、本校を実践研修の場としての活用を進めることや、自治体単位で行われている研修や研究会を本校で開催する。その発信を通して、附属学校の存在価値を高め、新任教員、学部卒業生、実地学生、附属学校教員の資質向上に貢献する。

(4) 実地教育の改善・充実

大学の重要なカリキュラムであり附属学校の本務である実地教育の一層の充実に努め、一層のDX化も含めて充実した実地教育をめざす。

(5) 異文化理解教育、国際理解教育の推進

大学グローバル教育センター等との連携により、日常的に留学生との触れあいの機会や異文化理解教育、国際理解教育を推進し、世界で活躍できる土壌を醸成する。令和5年度にオンラインによる留学生の地元の子どものとの交流を設定し、令和6年度に児童の外国（フィンランドやオーストラリア等）への短期留学訪問を実施する準備を行う。

3 今年度の重点目標と具体的な教育取組

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組	評価指標	達成状況 (5段階評価)
1 気持ちのそろった校内組織・教師集団づくり	(1) 新たな学校運営体制と管理職による的確なガバナンスの確立 (2) 積極的・意欲的で一体感のある教職員集団の構築 (3) 教員の指導実態と子どもの学力実態の把握と改善	①理念浸透 保護者向け学校だよりの発刊 教職員向け校長通信の発刊。 ①復活された副校長の活躍 ・教職員の人事評価制度の活用 ・主幹教諭の登用と成長。 ①学力テストと教員アンケートの実施等で教員がその間の指導状況を自覚する。	①校長だより(月1回以上) 校長通信(月1回以上) ①人事評価制度の適切な運用 ・「職場アンケート」職場内人間関係の肯定的評価の状況、困った時管理職に相談する状況 ①授業を担当した生徒の学力状況 生徒の授業アンケートの結果	
2 学校を取り巻く様々なステークホルダーとの間の信頼関係の回復	(1) 大学との共同研究の取組の推進 (2) 学校運営協議会制度(コミュニティ・スクール) (3) 新しい人事交流先との協定締結と計画的な拡大	①インテル STEAMLABO を活用した取組の拡大 ②「理論と実践の融合」研究を活用し、森山教授・永田教授と STEAM 教育の小中共同研究を行う。 ③授業実践交流会、小中合同の研究発表大会の工夫と実施 ①学校運営協議会の立ち上げ ②地元学校の会合に積極的に参加する。 ③加東市教育委員会との連携強化 ①自治体における人事計画に混乱を招かぬよう最大の配慮をする。 ②特別支援の免許取得策に加えて異校種免許の取得を可能とする等、自治体の期待について把握する。	①授業実践交流会・合同研究発表会の実施。地域教員との交流状況や参加状況 ②STEAM 研究の広がりや進展拡大。指定された取り組みができたか。 ③小中合同の研究発表大会の実施ができたか。参加者数等について ①学校運営協議会の定期的な開催 ②加東市と研究発表大会日程を調整 加東市内公立学校教員の参加状況 ③コミュニティ・スクールによって新しく生まれた取組、学校の地域貢献の状況 ①自治体からの教員派遣状況の推移 ②自治体訪問による把握	
3 安全・安心な学校づくり	(1) 校舎改良工事に関する安全確保 (2) いじめの未然防止、早期対応の徹底 (3) 互いを認め合う集団づくり (4) 授業規律、生活規律等の検討と統一 (5) 相談・支援体制の確立。居住地自治体、警察等関係機関との的確な連携。	①大学関係各課との連携強化 ①いじめの未然防止、早期の組織対応の徹底。 ①様々な取組を通して相手の立場を考え、違いを認め合う集団を形成する。 ①発達段階に応じた授業規律、生活規律等の徹底 ①長欠児童や特別支援の適切なアセスメントと対応の充実。生徒や保護者の相談・支援体制を確立。子ども家庭センターや居住地自治体、警察等関係機関とも的確に連携する。	①安全に工事が進捗しているか ①的確な「校内いじめ対策会議」の開催 生徒指導への情報集約→管理職への件数 ①特別活動の取組目標に学級集団づくりの観点を入れる。 ①ルールが徹底できたか。 ①SC、SSW との的確な連携状況 ②不登校児童と配慮を要する児童の対応状況の把握、個別の支援計画の作成状況等	
4 附属学校としての新しい文化の創造	(1) 働き方改革推進 ①時間外勤務申請の手続きの適正化 ② 時間外勤務が習慣化している教員自らの意識改革 (2) 校種間連携の推進 (2) カリキュラムマネジメントの推進 (3) 「教員養成の知の拠点化」推進 (4) 実地教育の改善・充実 (5) 異文化理解教育、国際理解教育の推進 (6) その他 入試制度の改善 ミドルリーダーが成長する学校づくり	まず基本的なことを徹底するため、当面は校長が直接以下の点について指導する ①時間外勤務の事前申請 ②会議時間の短時間化の徹底に努める。 ①小中合同教科部会 ②小中合同研究発表大会の検討 ③学校園間での教員の人事交流 ①キャリア探求総合に継続的に取り組む ②IB 国際バカロレアの取組については候補校から撤退。ストップする。 ③「理論と実践の融合」研究を活用し STEAM 教育の小中共同研究を実施 ①附属学校を実践研修の場としての活用を進め発信する。 ①教育実習総合センターと具体策の検討、さらなる改善策を検討 望ましい連絡進学の内方検討。 指導主事や、主幹教諭等で活躍できるミドルリーダーづくり	①時間外勤務手続きの改善状況 時間外勤務時間の縮減状況 ②労働基準法の遵守状況 ①合同教科部会の開催状況 ②合同研究発表大会検討状況 ③人事交流状況 ①STEAM 教育の推進状況 ②森山・永田教授の協力を得て大学と「理論と実践の融合」を研究推進 ①地域の教員の研修会等の開催状況 ①実地教育学生の実習後のアンケート結果の改善状況 ①留学生等との交流状況 ②短期留学訪問制度の構築できたか ①大学院進学希望者の増加と在籍状況 ②主幹教諭の配置状況、指導主事選考の受験状況等	

4 第3者評価の総評

浅野先生と学校経営コースによる